

2007年12月期(第29期) 決算説明資料

2008年2月14日

① 株式会社 小田原エンジニアリング

2007年12月期業績概要(1)

<経済の動向>

① わが国経済は概ね回復基調で推移

- ・原油価格動向が経済に与える影響等に注意が必要な状況が続いた。
- ・個人消費マインドの悪化や企業収益改善の足踏みなど、一部に弱さが見られた。

② 世界経済は着実に景気回復

- ・米国経済は住宅建設の減少等が見られたものの、緩やかな景気回復を示した。
- ・アジアでは、中国等の景気は引き続き拡大し、欧州でも景気が回復した。

③ 内外経済共に十分な留意が必要な状況

- ・原油価格の動向に加えて、年末に明らかとなった米国のサブプライム住宅ローン問題を背景とする米国の景気減速、金融資本市場の変動などの影響。

<モーター製造業界の動向>

- ・前年に続き設備投資については概ね慎重な動きで推移。
- ・年後半は設備投資に意欲的な動きが一部に見られた。

2007年12月期業績の概要(2)

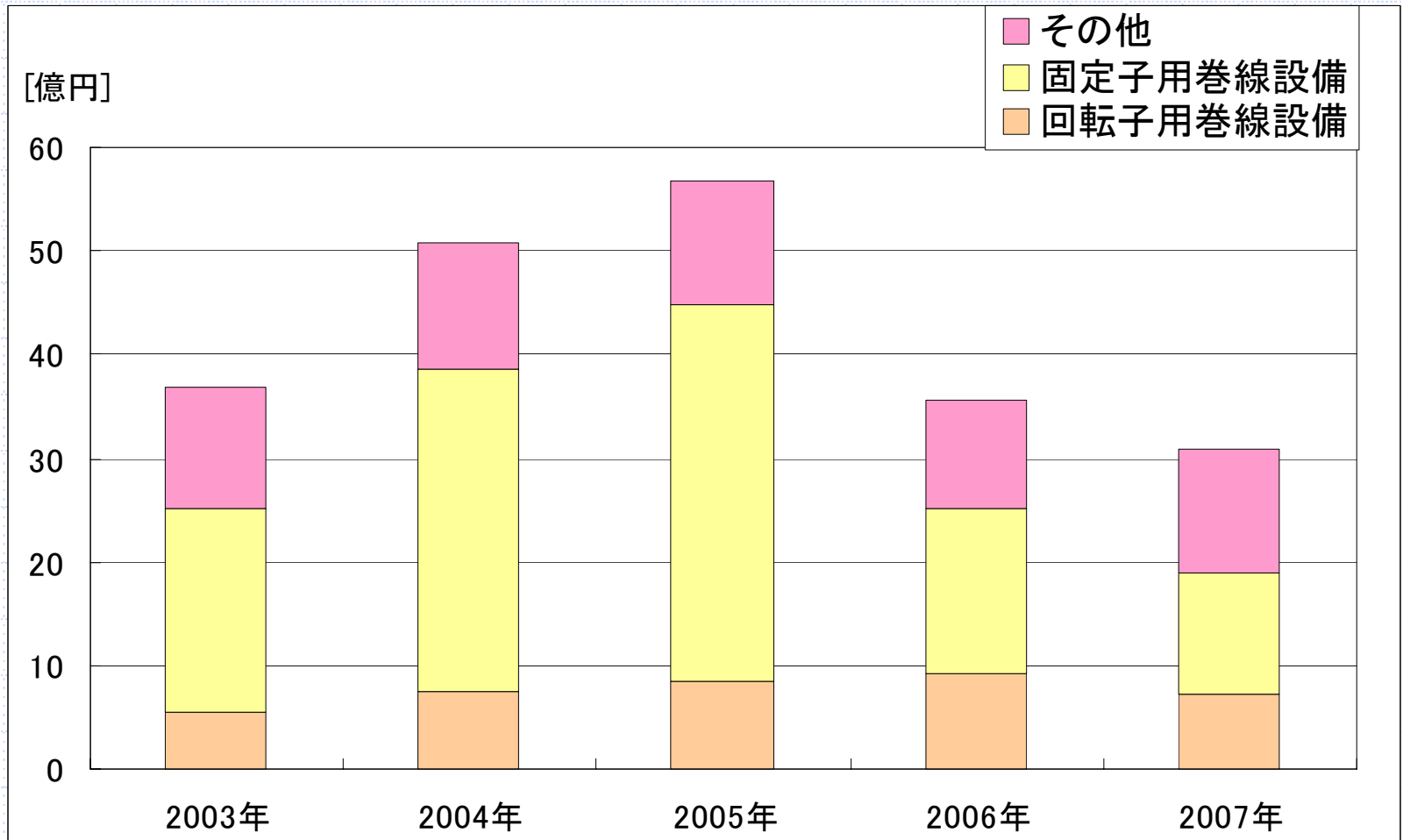
＜ODAWARAグループの活動＞

- ① モーター製造業界の設備投資動向に沿った製品を提供すべく、懸命な営業活動を展開するとともに、更なる技術力の向上に努めました。
- ② お客さまに満足いただける生産効率の向上に寄与する製品を開発しました。
代表的なものとしては、
 - ・電装品用モーターの2種混合生産を可能にする自動巻線システム
 - ・生産性と汎用性の向上を可能にするサーボモーター用自動巻線システム
- ③ 連結業績の概要
 - ・モーター製造業界の設備投資鈍化の影響を大きく受けた上半期までの不振を挽回すべく、懸命な営業活動を展開しました。
 - ・当年度中の受注高は累計で4,882百万円(前期比131.9%増)となり、これに伴い生産活動は活発になりました。
 - ・上半期までの低調な営業成績が大きく影響したため、当年度における当グループの営業成績といたしましては、売上高は3,086百万円(前期比13.3%減)に留まりました。
 - ・利益面につきましては、原価低減などに努め原価率は改善したものの、売上高減少の影響が大きく、経常利益は322百万円(前期比21.2%増)となり、当期純利益は175百万円(前期比42.7%減)となりました。

経営指標等の推移(連結)

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
売上高 (百万円)	3,686	5,076	5,681	3,560	3,086
経常利益 (百万円)	256	573	873	265	322
当期純利益 (百万円)	141	76	396	305	175
純資産額 (百万円)	6,558	6,571	6,889	6,856	6,956
総資産額 (百万円)	8,713	8,892	8,701	7,889	8,479
1株当たり純資産 (円)	1,035	1,039	1,088	1,162	1,180
1株当たり当期純利益 (円)	21.27	11.15	59.97	49.45	29.71
売上高経常利益率 (%)	6.9	11.3	15.4	7.5	10.4

製品別売上高推移(連結)



業績推移(連結)

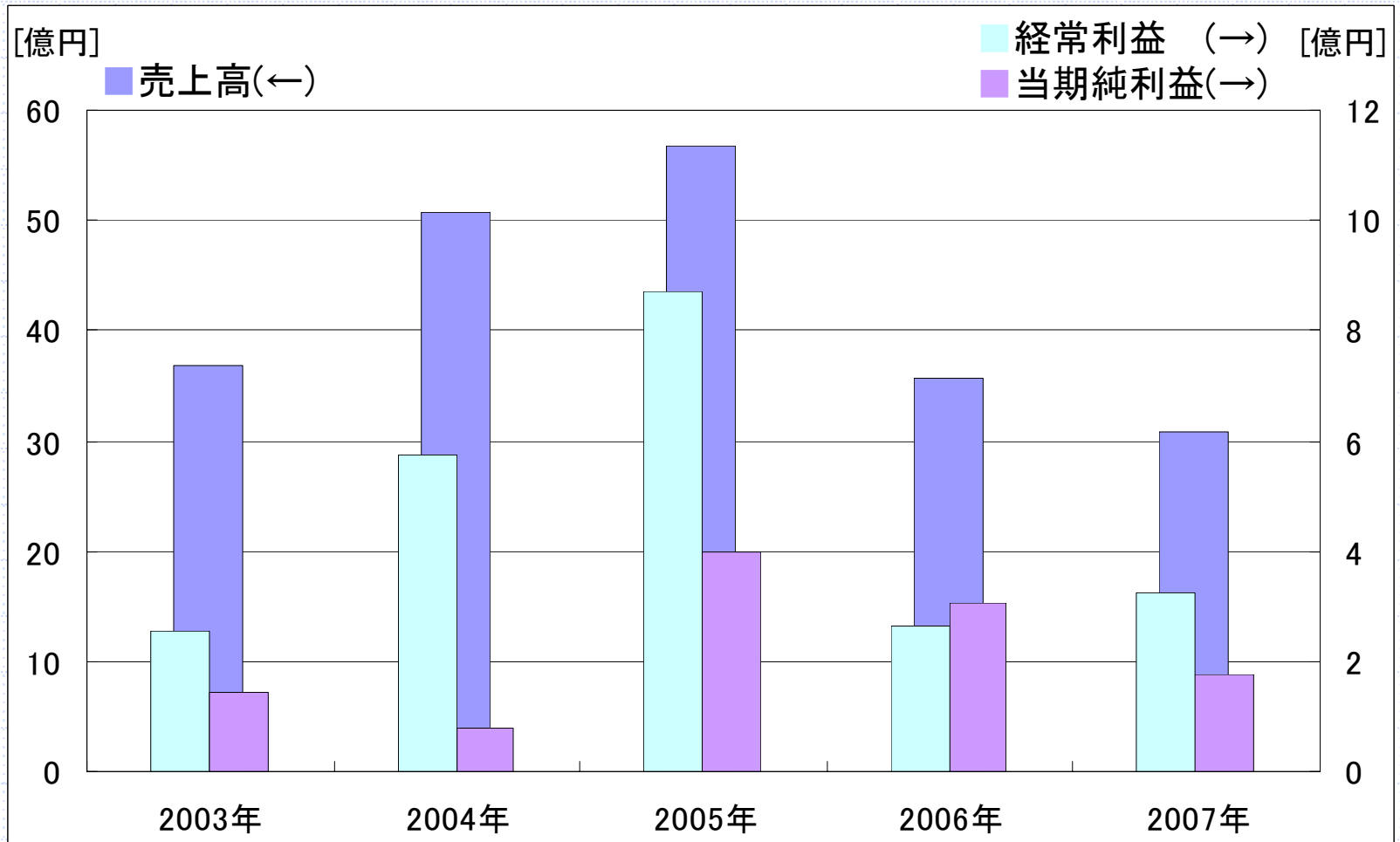
2003年：設備投資が、中国を中心に年後半立ち直る

2004年：土地の減損損失2.25億円を計上

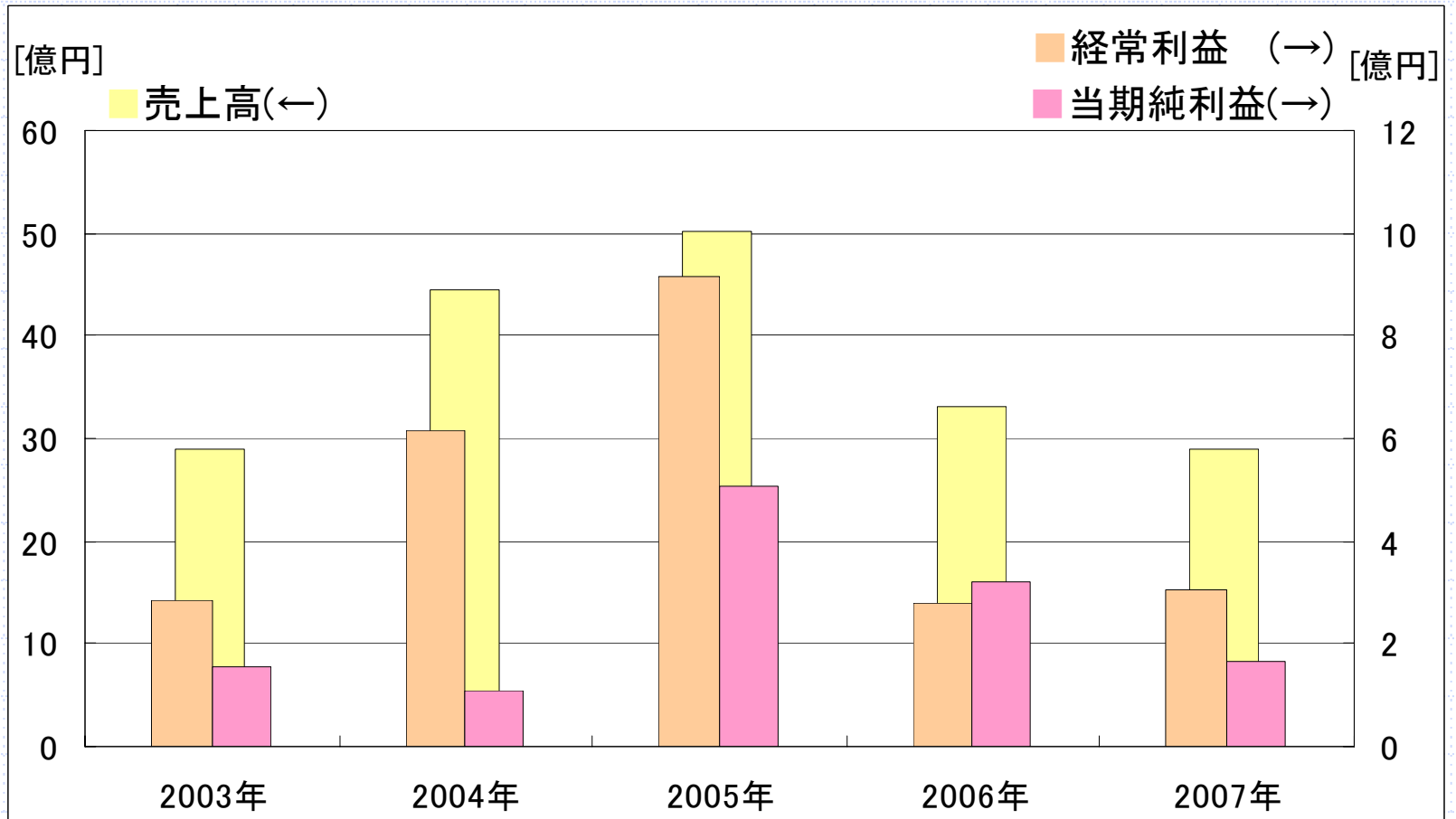
2005年：設備投資が好調に推移

2006年：前年の反動で、設備投資鈍化の影響

2007年：前期に続き上半期までの営業成績が低調

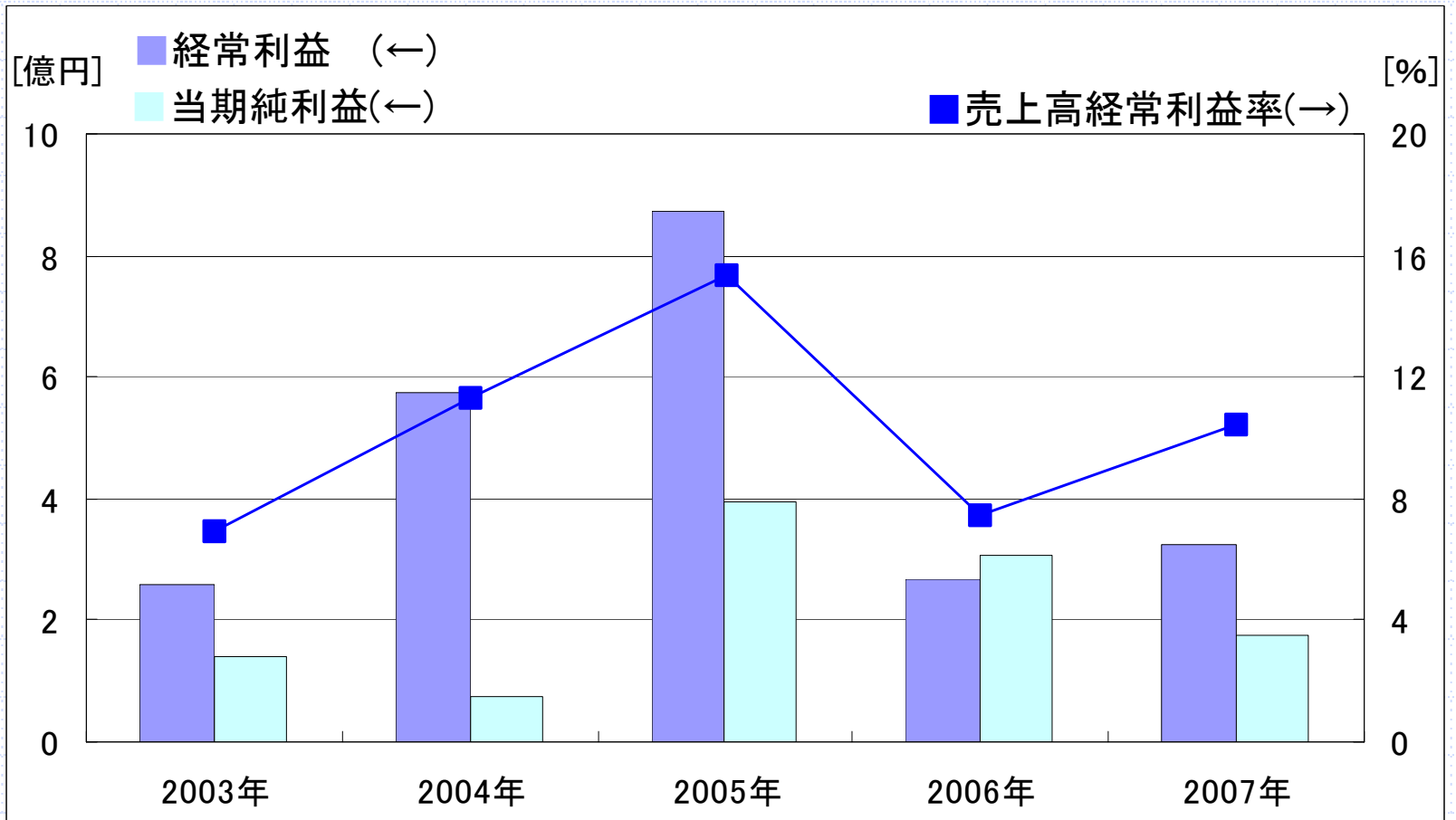


業績推移(単独)

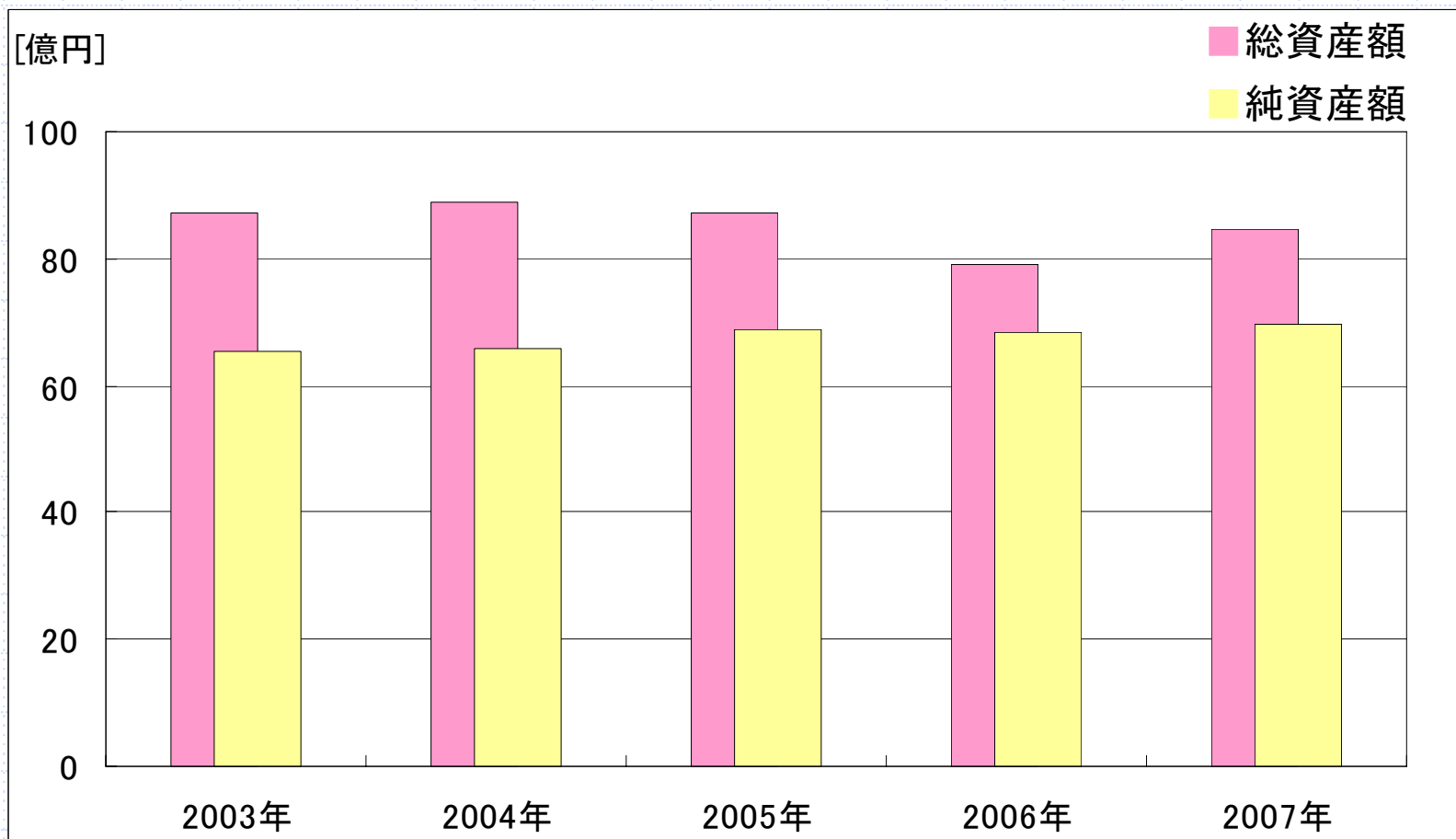


經常利益・当期純利益

・売上高經常利益率(連結)

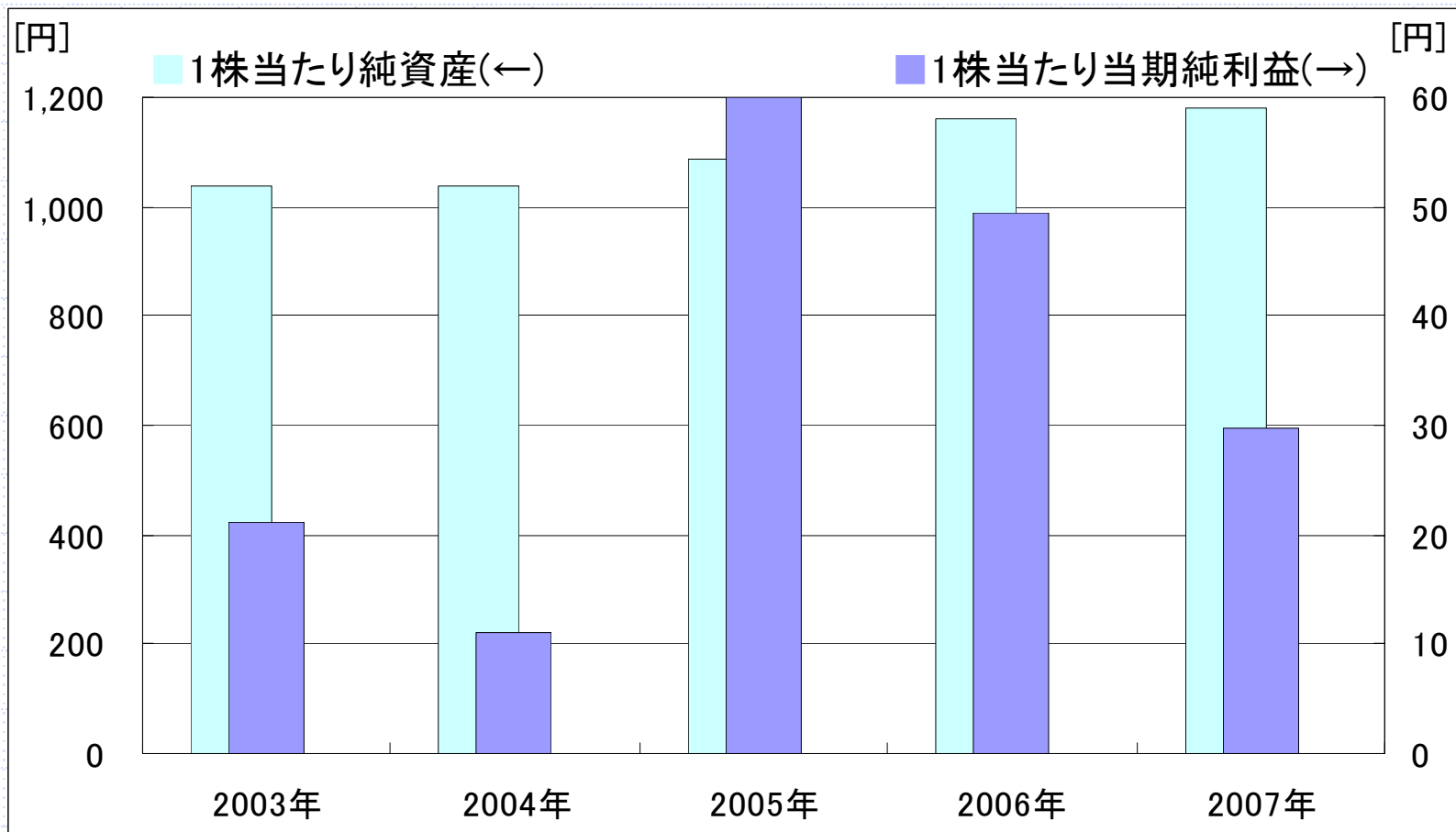


総資産額・純資産額(連結)

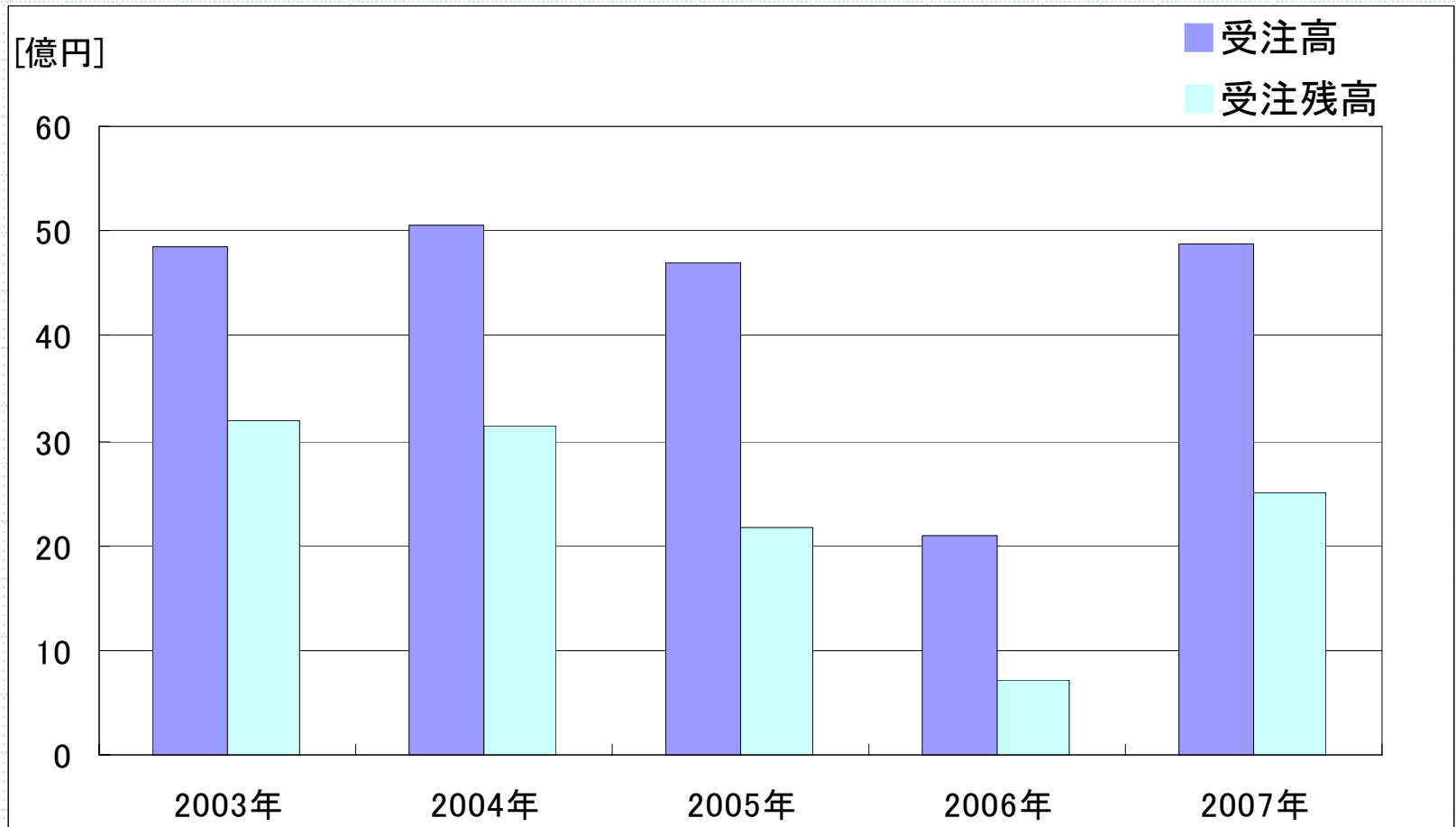


1株当たり純資産額

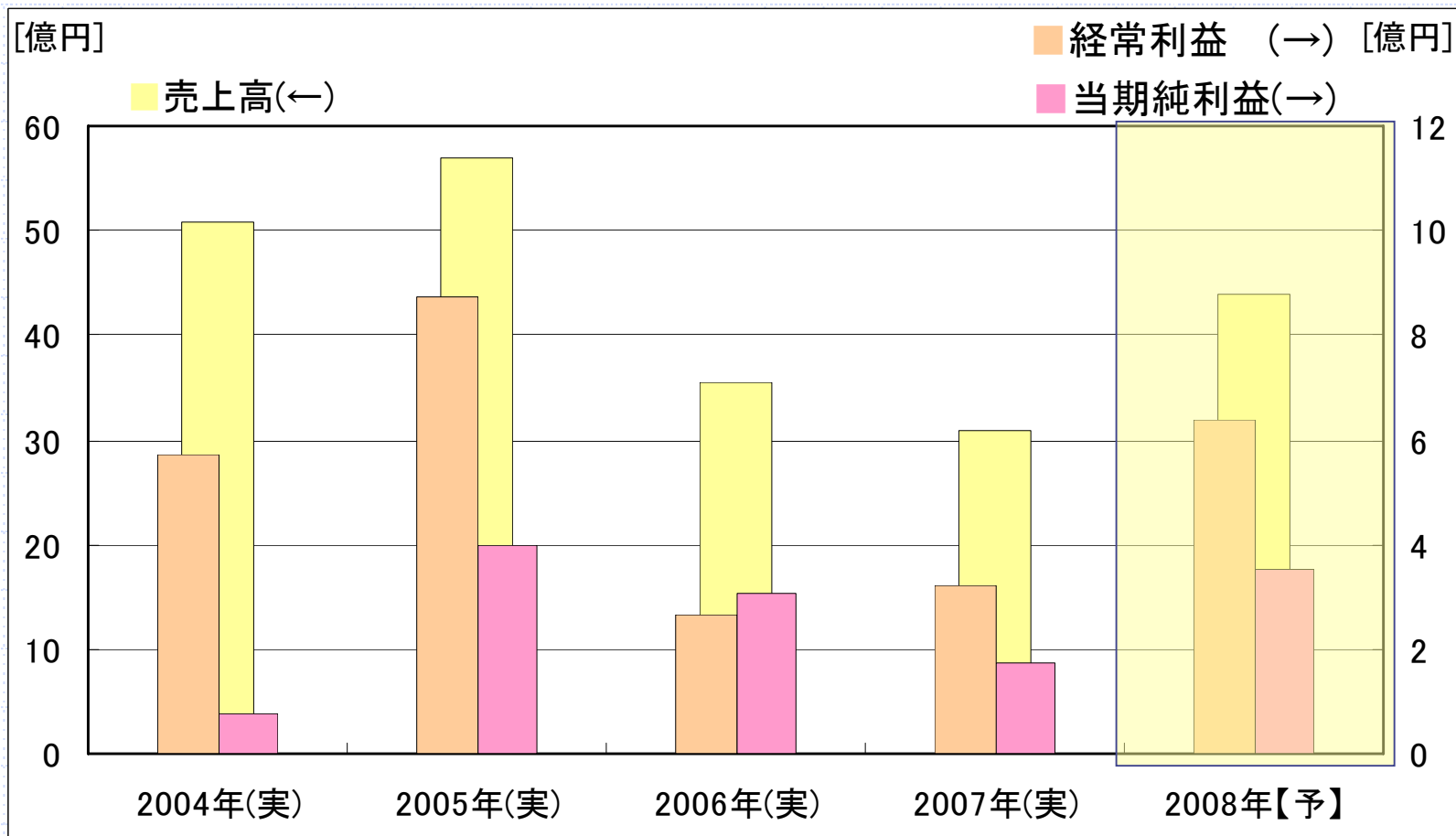
・ 1株当たり当期純利益(連結)



受注動向(連結)



業績予想(連結)



決算説明資料について

本資料に記載されている業績予想等については、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき、当社グループが判断したものでありますが、今後の様々な要因の変化により、将来の事業を取り巻く環境が大きく変動することがあります。

従いまして、将来の業績等につきましては、実施の業績等とは異なる場合がありますのでご了承ください。

株式会社小田原エンジニアリング